企業・組織向けの支援

事業の課題と、人が育つ過程を、一緒に扱う。

企業が実現したいことと、人・組織の成長を、
実際の仕事の中でつなぎます。

16 の導入検討プラン

仕事・成果物・実施条件から、導入を考える。

01
顧客の利用を支える
販売・導入・運用の、その先へ。

02
供給と運営を支える
約束した仕事を、担える体制へ。

03
新しい役割を担う
学び・配置・AIを、実務へ。

04
次の価値を探る
まだ見えていない役立ち方へ。

リクエスト株式会社｜組織行動科学®

目次

近い仕事から、各プランの仕事・成果物・実施条件を確かめられます。

顧客の利用を支える

01 製品を、顧客が使えるところまで p.3-4
02 装置の前後の仕事まで、提案する p.5-6
03 学習拠点の経験を、顧客の現場へ p.7-8
04 地域のサービスを、選び使える形へ p.9-10

供給と運営を支える

05 認定後の現場で、判断と相談をつなぐ p.11-12
06 受注を支える、工程の判断を整える p.13-14
07 協力会社と、施工の準備をそろえる p.15-16
08 現場の知見を、別の施設でも使える形へ p.17-18

新しい役割を担う

09 人材の配置を、担える仕事へつなぐ p.19-20
10 異動先で、経験を使い直す p.21-22
11 AIの出力を、人が選んで使える仕事へ p.23-24
12 日々の支援を、顧客相談の一件へつなぐ p.25-26

次の価値を探る

13 挑戦を、試せる仕事と支援に変える p.27-28
14 地域の暮らしから、店舗の価値を探る p.29-30
15 越境して得た見方を、次の商品へ p.31-32
16 異なる専門を、利用者の価値へ結ぶ p.33-34

会社案内・ご相談 p.35

導入検討プラン 01 / 顧客の利用を支える

製品を、顧客が使えるところまで

設備・機器メーカー

製品の導入から運用・保守へ関わりを広げるとき。既存の技術教育や販売店支援を確かめたうえで、顧客の準備と担当者の役割を一案件でそろえます。

> 目指す仕事の状態
>
> 顧客が利用開始に必要なことを把握し、販売・施工・保守の担当者が、次に誰へ何を確かめるか判断できる。

当社が担う仕事

01 利用までをたどる

導入を決めた後、顧客が用意する人・情報・作業と、販売・施工・保守の受け渡しを整理します。

02 営業の役割を決める

営業が顧客に確かめること、専門担当へ戻す条件、上司が調整する場面を具体化します。

03 次の案件へ残す

利用開始後の反応と双方の負担を読み合わせ、確認の順序と必要な支援を見直します。

最初に試す一件

これから利用を始める一件を選び、顧客の準備、販売店の支援、専門担当への相談を利用開始まで追います。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 利用開始までに時間を要した一件では、どの準備が影響していましたか。
- 既存の技術教育と販売店支援で、既にできていることは何ですか。
- 機器・施工・運用・顧客の準備を、誰と分けて確認できますか。

社内に残すもの

- 利用開始までの仕事と未確認事項の整理
- 営業・施工・保守の役割と相談条件
- 利用結果と、次の案件へ引き継ぐ記録

実践後に確かめること

- 顧客が予定した使い方を実行できたか
- 確認のやり直しと、利用開始までの停滞
- 販売店・専門担当の支援時間と採算

一緒に進める人と役割

営業責任者・上司	対象案件と顧客への確認機会を選び、担当者の時間と権限を整えます。
営業・施工・保守担当	各業務の基準に沿って顧客に確かめ、合意した役割を試します。
当社	確認する仕事と実務課題を設計し、記録から次の支援を組み直します。

実施条件と、役割の範囲

顧客に確認できる案件と、販売・施工・保守の担当者が振り返る機会を用意します。 技術・施工・安全の判断は担当専門家が担います。顧客に接触できず実務を試せない場合は、実施条件を先に整えます。

支援を組み立てる根拠

顧客接点人材の役割転換と実務課題の設計を用います。機器固有の利用条件は、顧客と技術担当者に確認します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 02 / 顧客の利用を支える

装置の前後の仕事まで、提案する

産業・分析機器メーカー

製品の性能に加えて、顧客の業務全体を支えるサービスを検討するとき。既存の営業体制とサービスを生かし、まだ必要な仕事があるかを確かめます。

> 目指す仕事の状態
>
> 顧客のどの仕事を支えるか、提供する側がどこまで担うか、その価値と費用を同じ材料から検討できる。

当社が担う仕事

01 前後の仕事を見る

装置を使う準備、操作後の処理、他部門への受け渡しをたどり、時間や費用がかかる場面を確かめます。

02 提供する範囲を選ぶ

既存サービスで満たせることと追加の必要を分け、営業・技術・サービスの役割をそろえます。

03 価値と採算を確かめる

小さな提供案を顧客と確認し、利用の事実、追加支援の負担、対価を検討する条件を整理します。

最初に試す一件

継続的に関わる顧客の一業務を選び、装置の前後で行う仕事を観察し、追加支援の候補を顧客と検討します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 装置を使う前後に、顧客は何へ時間や費用を使っていますか。
- 既存の支援で十分な部分と、まだ確かめたい部分はどこですか。
- 顧客が追加の支援に対価を払うのは、何ができるときですか。

社内に残すもの

- 装置の前後にある顧客業務の整理
- 提供範囲・役割・原価の検討表
- 利用と対価を確かめる小さな提案書

実践後に確かめること

- 顧客の業務で実際に使われた提供内容
- 継続利用の条件と追加確認の回数
- サービスの原価と、対価を検討する材料

一緒に進める人と役割

事業責任者・営業企画	提供方針、採算を判断する基準、対象顧客を選びます。
営業・技術・サービス	顧客の仕事を確かめ、実行できる支援と原価を具体化します。
当社	顧客業務の見方と部門間の検討を設計し、提供案を絞る材料を整理します。

実施条件と、役割の範囲

顧客の業務を確認する機会と、営業・技術・サービスが範囲と原価を検討する時間を用意します。 装置の専門性能と価格決定は担当部門が担います。顧客の必要と採算を確かめられない場合は、提案の量を増やす前に確認します。

支援を組み立てる根拠

顧客接点の実務設計と、観察から提供価値を探る知見を用います。個別サービスの対価と採算は対象案件で確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 03 / 顧客の利用を支える

学習拠点の経験を、顧客の現場へ

モビリティ・運用サービス

実践学習の拠点や教育内容が整い、学んだ担当者が顧客の現場へ戻るとき。既存の伴走支援を確認し、現地の条件に合わせて判断する部分を選びます。

> 目指す仕事の状態
>
> 担当者が顧客の運用条件を見て、学んだ方法のどこを使い、どこで技術・サービスへ相談するか選べる。

当社が担う仕事

01 条件の違いを比べる

学習時と実案件の使い方、人員、運用条件を並べ、同じ方法が使える部分と確認が必要な部分を分けます。

02 支援を選ぶ経験をつくる

営業・技術・サービスが持つ情報を結び、担当者が顧客への支援を選ぶ一件を設計します。

03 現場の結果を戻す

顧客の利用と再対応を振り返り、現地で必要だった支援を、育成側へ返す材料にまとめます。

最初に試す一件

研修を終えた担当者が車両運用を支える一案件を選び、学習時と違う顧客の条件を確認して、支援の選び方を記録します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 学習時に扱った条件と、顧客の現場で違う条件は何ですか。
- 顧客の使い方を知っているのは、どの担当者ですか。
- 既存の現場支援で十分な部分と、追加確認が要る部分はどこですか。

社内に残すもの

- 学習時と実案件の条件比較
- 担当者が選ぶ支援と相談先の計画
- 育成側へ戻す実務の確認記録

実践後に確かめること

- 顧客が製品やサービスを運用できた場面
- 担当者が支援を選んだ理由と再対応
- 現地・育成側それぞれの支援負担

一緒に進める人と役割

育成担当・事業責任者	学習内容と既存の伴走支援を共有し、対象案件を選びます。
営業・技術・サービス	顧客の条件を確かめ、支援を選び、利用結果を記録します。
当社	学習と現地の仕事を結ぶ課題を設計し、振り返りの観点を整えます。

実施条件と、役割の範囲

研修の内容と対象案件を照合でき、顧客の利用後まで確認する機会を設けます。 専門技術の内容や認定は既存の体系を用います。現行の教育と伴走で必要が満たされる場合は、追加支援を設けません。

支援を組み立てる根拠

学んだことを実務で使い直す経験設計を用います。顧客固有の技術・運用条件は、専門担当と共同で確認します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

導入検討プラン 04 / 顧客の利用を支える

地域のサービスを、選び使える形へ

地域・生活サービス

地域の生活に役立つサービスを増やし、既存の窓口やデジタル接点を活用するとき。利用者が実現したいことと、利用までに必要な手順を確かめます。

> 目指す仕事の状態
>
> 利用者が自分の目的に合うサービスを選び、必要な手続きを進められ、窓口も適切な支援先へつなげられる。

当社が担う仕事

01 本人の目的を知る

案内を探した理由、実現したいこと、使わない理由を聞き、サービス側の想定と比べます。

02 利用までの条件を整える

手続き、移動、家族との調整など、利用者が進める仕事と窓口が支える範囲を整理します。

03 選択と利用を確かめる

案内への到達、本人の選択、実際の利用と窓口の負担から、説明や受け渡しを見直します。

最初に試す一件

一つの窓口サービスを選び、相談から利用までの過程を利用者に確かめ、案内や支援の一部分を試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 利用者は、どんな生活上の目的を持って相談していますか。
- 手続きや移動、家族との調整で、確認が必要なことは何ですか。
- 使わなかった人は、何を理由に別の方法を選びましたか。

社内に残すもの

- 利用者の目的と利用手順の整理
- 窓口・デジタル案内の見直し案
- 選択・利用結果と支援負担の記録

実践後に確かめること

- 本人が必要な案内へたどり着けたか
- 目的に合う選択と、利用後の結果
- 窓口の確認・説明・引継ぎに要した負担

一緒に進める人と役割

サービス責任者	対象地域とサービスを選び、説明・運用の変更範囲を決めます。
窓口担当 利用者に接する人	本人の目的と利用の過程を確かめ、案内を試します。
当社	観察と問いを設計し、利用者の選択と担当者の仕事を結ぶ案を整理します。

実施条件と、役割の範囲

対象地域と利用場面を絞り、本人の同意を得て利用過程を確かめる機会を設けます。 サービスの提供条件や専門判断は運営部門の基準を用います。利用件数に加え、本人の選択と利用後の結果を確認します。

支援を組み立てる根拠

観察と対話から相手の見立てを確かめ直す知見を用います。地域ごとの利用条件と案内の適合は、対象の場で確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

導入検討プラン 05 / 供給と運営を支える

認定後の現場で、判断と相談をつなぐ

機器・装置のサービス

技能体系や専門訓練を整え、担当者が新しい顧客拠点で仕事を始めるとき。認定後も支援を要する場面と、現地から専門家へ戻す情報を具体化します。

> 目指す仕事の状態
>
> 担当者が認定された範囲を守って仕事を進め、現地の例外条件を適切な情報とともに専門家へ相談できる。

当社が担う仕事

01 現地で使う場面を選ぶ

一つの装置・職務を対象に、訓練内容が使われる場面と、条件の違いで支援が要る場面を整理します。

02 相談する条件をそろえる

現地で確かめる情報、専門家へ相談する時点、現地指導者の役割を技術担当と決めます。

03 立ち上がりを確かめる

顧客対応の経過と必要だった支援を振り返り、次に任せる仕事と支援の範囲を見直します。

最初に試す一件

認定を終えた担当者の初期案件を一つ選び、現地で必要となった判断、相談、専門家の支援をたどります。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 認定後にも、現地で支援が必要となるのはどの場面ですか。
- 顧客の新しい条件は、誰が把握して技術部門へ伝えていますか。
- 現地の指導者と専門家は、どの情報があると支援できますか。

社内に残すもの

- 訓練内容と現地業務の対応
- 例外時の確認項目と相談経路
- 立ち上がりと支援内容の確認記録

実践後に確かめること

- 技能基準を満たした範囲での仕事の立ち上がり
- 例外時の相談と顧客対応の品質
- 現地指導者・専門家に必要だった支援時間

一緒に進める人と役割

技術部門・現地責任者	技能基準、任せる範囲、専門家への相談経路を決めます。
現地担当者・指導者	基準に沿って実務を行い、例外条件と支援の経過を残します。
当社	実務課題と支援の受け渡しを設計し、記録の振り返りを支えます。

実施条件と、役割の範囲

技術基準を持つ専門部門と現地責任者が参加し、現地の実務と相談記録を確認できるようにします。 技術内容の認定や安全の判断は専門部門が担います。当社は実務経験と支援の設計を担当します。

支援を組み立てる根拠

実務で判断を育てる経験設計と役割の確認方法を用います。装置の技能・安全基準は専門部門と共同で扱います。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 06 / 供給と運営を支える

受注を支える、工程の判断を整える

製造・生産

受注した仕事を納期・品質に沿って遂行するため、既存の生産体制をさらに整えるとき。人の経験、設備、部材、契約の制約を分けて確認します。

> 目指す仕事の状態
>
> 工程を進めるための情報と判断の担当がそろい、若手が任された範囲を進め、専門家へ必要な相談ができる。

当社が担う仕事

01 直近の一工程をたどる

準備や判断に時間を要した案件で、必要な情報、決める人、次工程への影響を整理します。

02 任せる仕事を決める

若手が判断する範囲と、専門家が確かめる条件をそろえ、実務で経験する機会を選びます。

03 工程の事実から見直す

準備の完了、判断待ち、再作業、専門家の負荷を照らし、役割と情報の渡し方を改めます。

最初に試す一件

設計から調達へ渡すなど、一つの受け渡しを選び、準備する情報と判断時点をそろえて次案件で試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 納期や生産能力に影響した、直近の制約は何でしたか。
- 人の実務能力と、設備・部材・契約の条件を分けて確認できますか。
- 次工程が判断を進めるために、誰のどの情報が必要ですか。

社内に残すもの

- 一工程の準備・情報・判断の関係整理
- 若手の実務課題と専門家の支援計画
- 判断待ち・再作業と条件の確認記録

実践後に確かめること

- 次工程に必要な準備がそろった時点
- 判断待ちと再作業が起きた条件
- 若手が担えた範囲と専門家の負荷

一緒に進める人と役割

生産・工程の責任者	対象工程を選び、設備・部材・契約の条件を判断します。
実務担当者・専門家	技術基準に沿って担当範囲を試し、判断と支援を記録します。
当社	実務課題と部門間の受け渡しを具体化し、次の経験と支援を設計します。

実施条件と、役割の範囲

工程の記録を確認でき、責任者が任せる範囲と実践に使える時間を整えます。 生産技術や工程能力の判定は専門部門が担います。設備・部材が主な制約なら、必要な運営判断を先に行います。

支援を組み立てる根拠

仕事・権限・支援をそろえる経験設計を用います。工程固有の技術判断と制約は、生産・調達の専門家に確認します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

導入検討プラン 07 / 供給と運営を支える

協力会社と、施工の準備をそろえる

建設・住宅・施工

施工体制や協力会社への支援を既に進めながら、一工程の準備と育成を具体化するとき。顧客への約束を、現場の人数・時間・仕事量と照らします。

> 目指す仕事の状態
>
> 関係者が必要な情報を適切な時点で受け渡し、新任者が担当できる仕事と、指導者が確認する範囲がそろう。

当社が担う仕事

01 準備と受け渡しを確認する

一つの現場で、顧客への確認、元請の手配、協力会社の準備がどこでつながるかを整理します。

02 育てる条件をそろえる

新任者に任せる作業と相談条件を明確にし、指導者の時間・仕事量を責任者と確かめます。

03 現場と採算から見直す

準備・引継ぎの品質とやり直しを振り返り、指導の負担と協力会社の採算も確認します。

最初に試す一件

これから着工する一現場の準備を選び、必要な確認、担当、引継ぎの時点をそろえて運用します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- どの準備の遅れが、誰の仕事に影響しましたか。
- 元請・協力会社・顧客が、それぞれ必要とする情報は何ですか。
- 協力会社側で、指導の時間と仕事量を調整できますか。

社内に残すもの

- 元請・協力会社・顧客の情報整理
- 新任者の担当範囲と指導計画
- 準備品質・指導負担・採算の確認記録

実践後に確かめること

- 準備・引継ぎで必要な情報がそろったか
- やり直しの内容と、その発生条件
- 指導者の負担と協力会社の採算

一緒に進める人と役割

元請・施工責任者	工期・人員・契約の条件と、関係者の役割を決めます。
協力会社・指導担当	任せられる仕事と指導時間を確認し、実案件で試します。
当社	一工程の実務と育成の条件を整理し、記録と見直しを支えます。

実施条件と、役割の範囲

元請と協力会社の双方が参加し、実際の準備と指導に使える時間を確保します。 施工・安全の判断は責任者が担います。価格・工期・人員が主な制約なら、その調整を先に検討します。

支援を組み立てる根拠

メーカーと販売店の役割設計、実務課題と上司支援の知見を用います。施工と契約の条件は、現場責任者と確認します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 08 / 供給と運営を支える

現場の知見を、別の施設でも使える形へ

介護・生活支援サービス

品質と生産性を支える既存のノウハウや道具を、別の施設へ展開するとき。専門職の基準を前提に、周辺業務や情報共有の一つを取り上げます。

> 目指す仕事の状態
>
> 導入先が自分たちで進められる仕事と専門職へ戻す場面を判断し、利用者に向き合う仕事を支えられる。

当社が担う仕事

01 使う施設の条件を知る

人員、経験、使える道具、既存の手順を確認し、提供元と異なる条件を整理します。

02 担う範囲と相談を決める

周辺業務や情報共有の一場面で、担当者が行うことと専門職へ確認する条件を具体化します。

03 利用後の仕事を確かめる

記録・確認の負担と業務の質を見て、導入先が続けられる手順と支援を見直します。

最初に試す一件

記録の受け渡しなど一つの周辺業務を選び、専門職の基準に沿って、導入先の担当者が使う過程を確認します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 導入先が自力で進められる部分は、どこまでですか。
- 人員・経験・道具の違いで、そのまま使いにくい部分は何ですか。
- 記録や確認に使う時間と、利用者に向き合う時間はどうなりますか。

社内に残すもの

- 提供元と導入先の運営条件の比較
- 周辺業務の担当範囲と専門職への相談条件
- 利用・確認負担と支援関係の記録

実践後に確かめること

- 導入先が自力で進められた業務の範囲
- 記録・確認の負担と業務の質
- 専門職への相談と利用者に向き合う時間

一緒に進める人と役割

施設責任者・専門職	専門基準と安全の条件を決め、対象業務を選びます。
提供元 導入先の担当者	道具と手順を試し、使えたことと必要な支援を残します。
当社	条件の比較、実践の設計、利用記録からの見直しを支えます。

実施条件と、役割の範囲

専門職と施設責任者が参加し、個人情報の扱いをそろえたうえで、業務の過程を確認します。ケアの専門判断や安全認定は専門職が担います。専門基準と運営条件がそろう業務から、共同で設計します。

支援を組み立てる根拠

実務を任せる範囲と支援条件を設計する知見を用います。介護の専門内容と他施設への適合は、専門職と確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 09 / 新しい役割を担う

人材の配置を、担える仕事へつなぐ

事業・人材開発

事業転換に向けて育成や配置への投資を進め、配置後の実務を具体化するとき。既存の人材制度を生かし、実際の案件で担う役割を確かめます。

> 目指す仕事の状態
>
> 配置された人が、事業に必要な一件を担い、必要な情報と権限を使って判断し、受け手の結果から役割を見直せる。

当社が担う仕事

01 事業に必要な仕事を選ぶ

配置後に何が進めば役立つかを事業責任者と確認し、本人が担う成果と判断を一件に絞ります。

02 経験する条件を整える

実務の機会、使う情報、任せる権限、上司・専門家の支援を、人事と受入部門でそろえます。

03 役割を結果から見直す

本人が担えた仕事と受け手の利用結果を確認し、次の案件や役割の範囲を更新します。

最初に試す一件

新しい役割を担う一人の一案件を選び、事業側の期待、本人の判断、受入側の支援を開始時にそろえます。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 配置後、どの仕事が進めば事業に役立ちますか。
- 本人は、その仕事に必要な判断を実務で経験できますか。
- 時間・情報・権限・支援のうち、追加確認が必要なのは何ですか。

社内に残すもの

- 役割・期待する成果・本人の判断の整理
- 実務機会と受入側の支援計画
- 次の役割と配置後支援を決める材料

実践後に確かめること

- 新しい仕事を担えた範囲と案件の品質
- 成果を受け取った相手の利用結果
- 上司・専門家の支援時間と残る条件

一緒に進める人と役割

事業責任者・受入上司	必要な仕事と成果を定め、権限・情報・実践機会を整えます。
本人・人事担当	既存の経験と制度を確認し、実務と支援の経過を共有します。
当社	役割と実務課題を具体化し、事業と人事が記録を読む機会を設計します。

実施条件と、役割の範囲

事業側と人事が同じ案件を確認でき、本人が実際に判断する機会を確保します。 配置と評価の決定は会社が担います。配置後に任せる仕事が未定の場合は、仕事の具体化から始めます。

支援を組み立てる根拠

顧客接点人材の役割転換と、経験を新しい仕事で使う設計を用います。個別職務の要件は事業側と確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

導入検討プラン 10 / 新しい役割を担う

異動先で、経験を使い直す

技術・専門職の育成

学習から配置、現場の指導までの制度を整えたうえで、個別の判断を支えるとき。既存制度で担えている仕事を確かめ、残る必要に範囲を絞ります。

> 目指す仕事の状態
>
> 本人が以前の経験を使える条件を見分け、初めての場面では必要な情報を得て、適切に相談しながら仕事を進められる。

当社が担う仕事

01 一案件の判断をたどる

本人が以前の経験を使った箇所と、新たに判断した箇所を、実際の仕事の記録から整理します。

02 支援の理由をそろえる

知識、経験、情報、任せる範囲のどこが関係するかを確認し、指導担当と上司の支援を選びます。

03 次案件で使い直す

条件の違う次の仕事を選び、本人へ任せる部分と、支援を続ける部分を確かめます。

最初に試す一件

異動後の一案件を振り返り、既存経験が使えた条件を整理してから、条件の違う次の一件で確かめます。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 既存の学習と実践支援で、十分に担えている仕事は何ですか。
- 特定の場面での迷いは、知識・経験・情報・権限のどれに関係しますか。
- 条件の異なる次案件で、どの支援を変える必要がありますか。

社内に残すもの

- 既存経験と新しい判断を分けた実践記録
- 本人・指導担当・上司の支援の役割分担
- 条件の違う次案件の実践計画

実践後に確かめること

- 条件が違う案件での判断と、その理由
- 必要な情報を得て相談できた場面
- 指導担当と上司の負担、残す支援

一緒に進める人と役割

本人	判断の理由と、以前の経験が使えた条件を振り返ります。
指導担当・受入上司	専門基準と任せる範囲を確認し、必要な支援を選びます。
当社	判断経験の整理と読み合わせを設計し、次案件の支援を具体化します。

実施条件と、役割の範囲

本人と指導担当・上司が案件の記録を確認し、次に試す実務を選べるようにします。 職務固有の認定は専門部門が担います。既存制度で必要が満たされている場合は、追加支援を提案しません。

支援を組み立てる根拠

経験を新しい事業環境で使い直す条件と、再実践までつなぐ記録の知見を用います。個別の技能判断は専門家と確認します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

導入検討プラン 11 / 新しい役割を担う

AIの出力を、人が選んで使える仕事へ

AIを活用する事業・業務部門

AIの実装や評価を担う体制があり、利用する人と管理職の仕事を整えるとき。既存の評価方法と合わせ、確認の負担や品質責任を確かめます。

> 目指す仕事の状態
>
> 本人が出力を採用・修正する理由を説明でき、管理職と専門家が確認する条件もそろい、受け手が仕事で使える。

当社が担う仕事

01 前後の仕事を比べる

AIを使う前後で、作成、確認、修正、受け手の利用に誰の時間がかかるかを整理します。

02 人の判断を設計する

出力の採用基準、専門家へ確認する条件、本人と管理職の品質責任を実装担当とそろえます。

03 余力の使い方を確かめる

総時間と品質、本人の理解を確認し、余力が生まれた場合に任せる次の仕事を検討します。

最初に試す一件

既にAIを使える一業務を選び、作成から受け手の利用までを記録して、採用基準と確認の分担を試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- AIを使うことで、誰の確認や修正が増えていますか。
- 利用者は、出力を採用・修正した理由を説明できますか。
- 余力が生まれた場合、どの新しい仕事へ使えますか。

社内に残すもの

- AI利用前後の仕事と負担の整理
- 出力の採用基準・確認条件・責任分担
- 品質・総時間・次の仕事の検討記録

実践後に確かめること

- 作成・確認・修正を含む総時間と品質
- 本人が説明できた採用・修正の理由
- 受け手が使えたことと、次に任せる仕事

一緒に進める人と役割

実装・情報管理の担当	AIの機能、利用・情報管理の条件、既存の評価を共有します。
利用者 管理職・専門家	採用と確認の基準を決め、実務で判断した理由を残します。
当社	仕事と役割の変化を整理し、実践課題と確認方法の設計を支えます。

実施条件と、役割の範囲

実装担当と業務責任者が参加し、AIの利用条件と記録できる情報の範囲をそろえます。 AIの開発・技術評価は実装側が担います。品質責任を先に決め、既存支援で必要が満たされる場合は追加しません。

支援を組み立てる根拠

本人が判断する範囲と周囲の支援をそろえる知見を用います。AIの性能や業務への適合は、実装側と対象業務で確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

導入検討プラン 12 / 新しい役割を担う

日々の支援を、顧客相談の一件へつなぐ

金融・専門サービス

人材制度と管理職の日常運営を結び、顧客への新しい役割を定着させるとき。既存の仕組みと専門基準を生かし、一件の実務へつなぐ部分を選びます。

> 目指す仕事の状態
>
> 本人が顧客の目的を確かめて説明・引継ぎを選び、上司と専門部署が必要な情報と承認を支えられる。

当社が担う仕事

01 顧客の判断を具体化する

誰のどの判断を支える相談かを選び、本人が確かめる内容と専門部署の基準をそろえます。

02 日常の支援を組み込む

本人の行動と、制度・情報・承認側の条件を分け、上司が支援する時点を決めます。

03 同じ記録で振り返る

顧客への説明と引継ぎの経過を本人・上司・専門部署で確認し、次案件で変える支援を選びます。

最初に試す一件

継続中の顧客相談を一つ選び、説明・専門部署への引継ぎ・確認の時点をそろえ、結果から次の対応を見直します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- どの顧客の、どの判断が進めば役立ちますか。
- 本人の対応と、情報・承認・制度の条件を分けて確認できますか。
- 上司と専門部署は、どの記録を見ると支援を選べますか。

社内に残すもの

- 顧客相談で担う役割と説明・引継ぎの基準
- 本人・上司・専門部署の確認計画
- 次の相談に使う判断と支援の記録

実践後に確かめること

- 顧客への説明と専門部署への引継ぎの品質
- 相談を支えた総時間と承認の条件
- 条件の違う次案件での本人の判断

一緒に進める人と役割

業務責任者・専門部署	専門基準、承認経路、本人が担う範囲を決めます。
本人・直属上司	相談の前後を同じ記録で確認し、実務と支援を試します。
当社	実務課題と記録の観点を設計し、日常運営へ組み込む支援を具体化します。

実施条件と、役割の範囲

顧客情報の扱いをそろえ、本人・上司・専門部署が一案件を振り返る時間を設けます。 金融商品の推奨や適合性は専門部門の基準を用います。運営側の条件は、その決裁者と調整します。

支援を組み立てる根拠

開始時の合意、実践記録、上司との確認、再実践をつなぐ知見を用います。専門判断と制度への接続は担当部門と設計します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 13 / 次の価値を探る

挑戦を、試せる仕事と支援に変える

事業開発・技術企画

挑戦を促す取り組みがあり、提案を実際の試行へ進めたいとき。部署で既に整った支援を確かめ、資源・リスク・優先順位を誰が決めるかを具体化します。

> 目指す仕事の状態
>
> 提案者が合意した範囲で試し、顧客から得た事実をもとに、関係部門が継続・変更・見送りを判断できる。

当社が担う仕事

01 試す問いを絞る

既存の事業課題から、誰にどんな価値があるかを確かめる一件を選び、既知と未確認を分けます。

02 周囲の仕事を決める

技術の条件、使える資源、試す権限、次に判断する人をそろえ、提案者が担う範囲を明らかにします。

03 試行から案を更新する

相手が使ったことと使わなかった理由を整理し、価値の案と、継続に必要な支援を見直します。

最初に試す一件

検討中の提案を一つ選び、顧客に確かめる問いと試す形を決め、支援者・決裁者と条件をそろえて試行します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 過去の提案は、どの時点で進み、どこで追加確認が必要でしたか。
- 技術の確認と、資源・優先順位の判断を誰が担いますか。
- 試行で得た事実を受け取り、次を決める人は誰ですか。

社内に残すもの

- 試す価値の案と、確かめる問い
- 提案者・支援者・決裁者の役割計画
- 継続・変更・見送りの判断材料

実践後に確かめること

- 実際に試せた内容と顧客から得た事実
- 次の意思決定が進んだ条件
- 提案者と支援者に生じた負担

一緒に進める人と役割

提案者 顧客接点を持つ人	相手の必要を確かめ、合意した範囲で試行します。
上司 隣接部門・意思決定者	資源・権限・専門条件を整え、試行後の判断を担います。
当社	問い、試す一件、支援の分担を設計し、反応からの見直しを支えます。

実施条件と、役割の範囲

試す相手、一定の裁量、支援者、試行後に判断する人を、開始前にそろえます。 専門技術と資源の決裁は担当部門が担います。試す権限と支援者を確保できない場合は、条件整備から始めます。

支援を組み立てる根拠

観察と試行で相手への見立てを更新する知見、実務と周囲の支援の設計を用います。事業の採算は別途検討します。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 14 / 次の価値を探る

地域の暮らしから、店舗の価値を探る

店舗・地域サービス

店長育成や店舗運営の支援がある中で、地域に合う提供内容を考えるとき。一店舗が何を確かめ、どの裁量で試し、本部の何を必要とするかを具体化します。

> 目指す仕事の状態
>
> 地域の利用者が大切にすることを基に、店が提供する価値の候補を試し、利用と運営の両面から続け方を選べる。

当社が担う仕事

01 暮らしの工夫を知る

利用者が実際に行っていることや工夫を観察し、店が想定した価値と本人の目的を比べます。

02 一店舗で小さく試す

スタッフの気づきから提供案を選び、店長の裁量と本部への依頼を整理して試す形をつくります。

03 利用と運営を照らす

再び選ぶ理由、増えた運営業務、採算を確認し、その地域で続けられる提供内容を見直します。

最初に試す一件

一店舗の一つの利用場面を選び、利用者の工夫から提供案をつくり、既存の運営の中で小さく試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 地域の人が、暮らしの中で行っている工夫は何ですか。
- 店が考えた価値と、利用者が実現したいことはどこで違いますか。
- 続けるために、スタッフや本部のどの仕事が増えますか。

社内に残すもの

- 地域の利用場面と提供価値の候補
- 一店舗で試す案と本部への依頼事項
- 利用の反応・運営業務・採算の確認記録

実践後に確かめること

- 利用された場面と、再び選ぶ理由
- スタッフと本部に増えた仕事
- その地域で続けるための採算と条件

一緒に進める人と役割

店長・スタッフ	利用者に確かめ、現場で試せる案と運営上の条件を考えます。
本部・意思決定者	裁量、専門的な確認、必要な資源と継続条件を整えます。
当社	観察の問いと試行を設計し、地域の必要と店の仕事を結び付けます。

実施条件と、役割の範囲

利用者に接する機会、店舗で試す裁量、本部が対応する範囲を用意します。 商品・安全・運営の基準は既存のものを用います。地域ごとの利用を確かめ、展開先で必要な変更を判断します。

支援を組み立てる根拠

相手の行動と工夫から価値を探る観察・試行の知見を用います。店舗固有の価値と採算は、地域の利用で確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

導入検討プラン 15 / 次の価値を探る

越境して得た見方を、次の商品へ

消費財・商品企画

地域・職種・商品領域を越える経験機会を設け、得た知見を事業で生かすとき。顧客の生活を知り、既存の分類を越えて試せる仕事を確かめます。

> 目指す仕事の状態
>
> 異なる経験を持つ人が、利用者の同じ行動から見方の違いを見つけ、価値の候補を試して次の提供内容を判断できる。

当社が担う仕事

01 同じ利用場面を見る

地域や職種の異なる人が同じ場面を観察し、見た事実と各自の解釈、想定外だったことを整理します。

02 見方の違いを案にする

違う解釈が生まれた理由をたどり、誰が何をできるようになるかを、試せる候補にします。

03 戻った仕事で確かめる

受入側と送り出し側の支援をそろえ、試作や小さな提供を利用者に試してもらい、結果を残します。

最初に試す一件

二つの職種など、経験の異なる担当者が同じ利用場面を見て、一つの提供案を帰任後の仕事で試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 越境して得た知見を、帰任後のどの仕事で使えますか。
- 顧客の生活を知り、従来の商品分類を越えて試す機会はありますか。
- 受入側と送り出し側は、試行のために何を支えますか。

社内に残すもの

- 同じ利用場面から得た事実と見方の比較
- 提供価値の候補と試作・試行の計画
- 帰任後の仕事へ残す利用結果と知見

実践後に確かめること

- 観察で初めて分かった事実と変わった見方
- 試した案と、利用者が実際に行ったこと
- 帰任後の仕事へ使えた知見と必要な支援

一緒に進める人と役割

参加者 商品や顧客の担当	同じ利用場面を観察し、見方の違いから案をつくって試します。
受入側 送り出し側の上司	観察と帰任後の実践機会、使う時間と意思決定を支えます。
当社	事実と解釈の整理、案の比較、経験を次の仕事へ移す設計を支えます。

実施条件と、役割の範囲

観察する相手と利用場面を選び、帰任後に試す仕事を受入側・送り出し側で用意します。商品の専門開発と事業判断は担当部門が担います。経験した感想に加え、試した内容と利用の事実を確認します。

支援を組み立てる根拠

観察から価値を探る知見と、経験を異なる仕事で使い直す設計を用います。商品化と採算の判断は別途確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

導入検討プラン 16 / 次の価値を探る

異なる専門を、利用者の価値へ結ぶ

技術・営業・企画の共同開発

共創や対話を支える取り組みがあり、具体的な顧客案件で専門性を組み合わせるとき。利用者の使い方を材料に、まだ満たされていない必要を探ります。

> 目指す仕事の状態
>
> 各部門が同じ利用事実から提供価値の候補を考え、試作への反応を基に、提供する内容と担う役割を更新できる。

当社が担う仕事

01 同じ事実を持ち寄る

技術・営業・企画が利用者の使い方を確かめ、観察した事実と、自部門の想定を分けて共有します。

02 専門性を提供案へ結ぶ

誰のどの場面に役立つかを軸に案を比較し、各専門が担う部分と、利用者に確かめる形を決めます。

03 実際の利用から選ぶ

試作を選ぶ・使う・使わない反応を見て、採用・変更・見送りの理由と次の役割を整理します。

最初に試す一件

検討中の一案件で、各部門が同じ利用場面を確認し、紙の見本や仕事の一部分など、確かめられる案を試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- 誰のどの使用場面を、各部門が共に見ていますか。
- 提案する側の想定と、利用者の目的はどこで違いますか。
- 試作を使う相手と、次の判断をする人は決まっていますか。

社内に残すもの

- 利用の事実と部門ごとの見立ての整理
- 専門性を組み合わせた提供案と試作計画
- 採用・変更・見送りの理由と次の役割

実践後に確かめること

- 利用者が実際に選び、使ったこと
- 試行を受けて変わった価値の案
- 採用・見送りの理由と提供側の負担

一緒に進める人と役割

技術・営業・企画	同じ利用場面を確かめ、専門性を用いて提供案をつくります。
利用者への接点 意思決定者	試す機会、専門評価の範囲、次の判断を整えます。
当社	観察の問い、案の比較、試行からの見直しを設計し、協働を支えます。

実施条件と、役割の範囲

利用者に試してもらう機会と、技術・営業・企画が同じ結果を見て判断する時間を設けます。専門的な製作・技術評価は担当部門が担います。支払意思と採算は、事業化の判断に必要な段階で別途検証します。

支援を組み立てる根拠

対話と観察から相手への見立てを確かめ直す知見を用います。個別の技術統合と事業化の条件は、各専門部門と確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る

リクエスト株式会社

より善くを目的に。知を社会へひらく。

組織行動科学®を共通基盤に、8つの研究機関が知見を持ち寄り、組織で働く成人の研究と教育開発、企業・組織の仕事の支援に取り組んでいます。

研究・教育開発の基盤

980社・延べ33.8万人

組織で働く人のデータを基盤に、対象の仕事に近い実践記録と条件を確かめ、支援を設計します。

会社名	リクエスト株式会社（reQuest Co., Ltd.）
代表取締役	甲畑 智康
設立	2020年10月2日
事業	組織で働く成人の研究と教育開発
本社	〒160-0022 東京都新宿区新宿3丁目4番8号 京王フレンテ新宿3丁目4F

ご相談から、ご依頼へ

進めたいことと実務の状況を伺い、支援の範囲・成果物・期間・費用を、詳細企画書とお見積りでご提案します。

ご相談： https://requestgroup.jp/request

メール： request@requestgroup.jp

会社概要： https://requestgroup.jp/corporateprofile